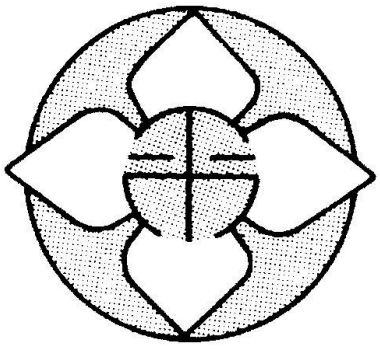
令和８年度

「運営に関する計画」

(中間評価)



大阪市立平野南小学校

令和８年１０月

（様式１）

大阪市立平野南小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1　学校運営の中期目標

現状と課題

令和７年度に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果は、平均正答率では、国語・算数・理科すべてで全国、大阪市の結果を下回っている。国語では、全国とは 17.8 ポイント、大阪市とは 16 ポイントの開きが見られる。また、算数では、全国・大阪市とは 13 ポイントの開きが見られる。さらに、理科では、全国とは 18.1 ポイント、大阪市とは 16 ポイントの開きが見られる。特に、平均無回答率について、国語・算数・理科すべてで全国、大阪市の結果より高くなっている。国語では、全国より 2.3 ポイント、大阪市より 2.8 ポイントの開きが見られる。また、算数では、全国とは 0.5 ポイント、大阪市とは 0.8 ポイントの開きが見られる。さらに、理科では、全国とは 1 ポイント、大阪市とは 0.8 ポイントの開きが見られる。平均無回答率の高さが平均正答率を押し下げてしまっている要因の一つであると考えられる。

また、質問紙の結果は、いくつかの質問事項で全国、大阪市を上回る結果があった。特に「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」の項目においては、100%の児童が肯定的な回答をしている。また、国語科や算数科の授業に関しての質問事項でも肯定的な回答が多かった。一方で、理科の授業に関する質問事項では、全国、大阪市を下回る結果となっており、理科学習に対して苦手意識があることが分かった。また、タブレット端末等の ICT 機器の活用に関する項目でも、全国、大阪市を下回る結果となっており、ICT 機器の活用を推進する必要性があることが分かった。

令和７年度に実施した「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果は、実技調査における体力合計点は、男子では大阪市平均を上回るものの全国平均を下回った。女子では大阪市・全国平均ともに下回った。種目別では、長座体前屈が男子女子ともに全国平均を上回ったが、握力・反復横とび・50m 走・立ち幅とびで男子女子ともに全国・大阪市平均を下回った。

また、質問紙調査の「運動やスポーツをすることは好きですか」の項目に対し、肯定的に回答する児童の割合は、男子では全国・大阪市平均を上回ったが、女子では全国・大阪市平均を下回った。１週間の総運動時間が 60 分未満の児童の割合は、男子では全国・大阪市平均より少ないが、女子では全国・大阪市平均より多い結果となった。

本校は、休み時間や放課後に外遊びをすることが好きな児童が多く、学級担任を交えたクラス遊びなども盛んに行なわれている。また、体力向上ための持久走や大縄跳びを全校で取り組むことで、冬季の運動量確保に努めている。しかし、校区の特性上公園が少なく、一旦家に帰ると遊べる場所が少なく発達段階に即した運動量を確保しにくい現状がある。質問紙調査の「スクリーンタイム５時間以上」の児童の割合が全国・大阪市平均よりも高いことからも放課後の運動量が少ないことが示唆される。今後も放課後の校庭開放をはじめ、遊びや運動ができる機会や場所を提供できるよう努めていきたい。

質問紙調査の「体育の授業は楽しいですか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合は、男子では全国・大阪市平均を上回ったが、女子では全国・大阪市平均を下回った。今後も体育科の授業改善を行うことで、運動をすることの楽しさや大切さ及び必要性が実感できる指導に繋げていきたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

・ 毎年度末の校内調査において、不登校の児童の割合を、毎年、前年度より減少させる。
【令和７年度：４．３５　令和７年度大阪市平均２．００を参考に設定。】

・ 令和 11 年度の小学校学力経年調査・校内調査の「自分には、よいところがありますか。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を、８０％以上にする。
【令和７年度：７１．６％　令和７年度大阪市平均８２．０％を参考に設定。】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

・ 令和 11 年度の全国学力・学習状況調査の平均正答率５割以下の児童を、令和７年度より５ポイント減少させる。
【令和７年度：３５ポイント　令和７年度大阪市平均２５ポイントを参考に設定。】

・ 令和 11 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を６５％以上にする。
【令和７年度：６５．２％　令和７年度大阪市平均６４．５％を参考に設定。】

【学びを支える教育環境の充実】

・ 令和 11 年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、６０％以上にする。
【令和７年度：６年６７．７％　５年５７．８％、４年３８．１％、３年５５．７％
令和７年度大阪市平均６５．０％を参考に設定。】

・ 時間外勤務時間数が年 720 時間を超える教員を毎年ゼロにする。【令和７年度：１人】

・ 令和 11 年度の小学校学力経年調査・校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、６５％以上にする。
【令和７年度：５４．８％　令和７年度大阪市平均７０．４％を参考に設定。】

2　中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

・　年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
　【令和７年度：４．３５　毎年０．５９減なら中期目標２．００に到達。】

・　小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を７３．７％以上にする。
　【令和７年度：７１．６％　毎年２．１％増なら中期目標８０％に到達。】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

・　小学校学力経年調査における、国語の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より１．１ポイント減少させる。
　【令和７年度：５年３１．１ポイント、４年３４．４ポイント、３年４９．３ポイント　中期目標の３０ポイントを基準に設定。】

・　小学校学力経年調査における、算数の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より１．７ポイント減少させる。
　【令和７年度：５年２８．８ポイント、４年３１．７ポイント、３年５２．２ポイント　中期目標の３０ポイントを基準に設定。】

・　小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を７０％以上にする。
　【令和７年度：７０．９％　令和７年度大阪市平均６９．２％以上を維持する。】

【学びを支える教育環境の充実】

・　小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を４５％以上にする。
　【令和７年度：６年６７．７％、５年５７．８％、４年３８．１％、３年５５．７％　毎年５％増なら中期目標６０％に到達。】

・　時間外勤務時間について、年 720 時間を超える教員をゼロにする。
　【令和７年度：１人】

・　小学校学力経年調査における「読書は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、５７．４％以上にする。
　【令和７年度：５４．８％　毎年２．６％増なら中期目標６５％に到達。】

3　本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

・

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

・

【学びを支える教育環境の充実】

・

（様式２）

大阪市立平野南消防署　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 ・　年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 【令和７年度：４．３５　毎年０．５９減なら中期目標２．００に到達。】 ・　小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を７３．７％以上にする。 【令和７年度：７１．６％　毎年２．１％増なら中期目標８０％に到達。】	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向１　安全・安心な教育環境の実現】 ・児童が自己肯定感や自己有用感を感じることができる授業を実践する。 ・学級活動やみんな遊びを通して、互いを認め合える集団を育成する。	A
指標 ・学校生活アンケートの「学級や学年の友達と一緒に過ごすことが楽しい」と肯定的に回答する児童の割合を９０％以上にする。【令和７年度：９１．３％】	
取組内容②【基本的な方向２　豊かな心の育成】 ・多様な価値観や文化を持つ子ども同士が互いの違いを認め合い、高め合える多文化共生教育を推進する。	B
指標 ・教職員を対象とした外国人教育の研修を年１回以上行う。 ・外部講師による異文化の体験的な学習に１学年以上で取り組む。	
取組内容③【基本的な方向２　豊かな心の育成】 ・互いの違いを理解し、認め合う集団の育成に努める。 ・多様な体験活動を実施する。	B
指標 ・学校生活アンケートの「体験活動は好きです」と肯定的に回答する児童の割合を９０％以上にする。【令和７年度：９０．８％】	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【取組の進捗状況の結果と分析】

①　７月に実施した前期学校生活アンケートの「学級や学年の友達と一緒に過ごすことが楽しい」と肯定的に回答する児童の割合は、95.4パーセントで目標を達成できている。各学級での授業や取り組みでお互いを認め合える空気づくりをしている。

②　教職員対象の外国人研修は予定しているが未実施である。外部講師による異文化体験授業は既に行っており、子どもたちは興味をもって取り組んだ。

③ 7月に実施した前期学校生活アンケートの「体験活動は好きです」と肯定的に回答する児童の割合は、90.6 パーセントで目標を達成できている。各学年、遠足や社会見学、出前授業など体験的な学習を取り入れられている。
次年度（今後）への改善点
① 3 学期には児童会による「ありがとうカード」の活動も予定しており、計画通り実行していけば目標は達成できると考える。 ② オリニフェ参加児童が減少しており、中国やフィリピンなど児童のルーツも多様化しているので、様々な国の文化に触れられる取り組みもしていきたい。 ③ 今後も計画通り実施していく。

（様式２）

大阪市立平野南小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準　A：目標を上回って達成した　　B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった　　D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 ・　小学校学力経年調査における、国語の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より１．１ポイント減少させる。【令和７年度：５年３１．１ポイント、４年３４．４ポイント、３年４９．３ポイント　中期目標の３０ポイントを基準に設定。】 ・　小学校学力経年調査における、算数の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より１．７ポイント減少させる。【令和７年度：５年２８．８ポイント、４年３１．７ポイント、３年５２．２ポイント　中期目標の３０ポイントを基準に設定。】 ・　小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を７０％以上にする。【令和７年度：７０．９％　令和７年度大阪市平均６９．２％以上を維持する。】	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向４　誰一人取り残さない学力の向上】 ・基礎基本の定着を図るため、朝学習の時間の活用や放課後学習に取り組む。 ・高学年において、教科別指導による学習指導を取り入れる。 指標 ・モジュール学習に各学年年間３５時間以上取り組む。 ・小学校学力経年調査で、昨年度の標準化得点※を上回る。 ［※新３年→前年度３年，４・５・６年→前年度学年］ 【令和７年度：３年９４．１ポイント、４年９５．４ポイント、５年９５．０ポイント、６年９４．７ポイント】	B
取組内容②【基本的な方向４　誰一人取り残さない学力の向上】 ・木曜日の朝学習「ＤＲＥＡＭタイム」を活用し、低学年からの英語活動に取り組む。 ・C-NET を活用し、楽しく英語に触れあえるようにする。 指標 ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を７５％以上にする。 【令和７年度：３年７７．１％、４年６９．９％、５年６７．２％、６年７９．０％】	B

取組内容③【基本的な方向５　健やかな体の育成】 ・児童の体力保持増進のため、体育の学習、体育的行事の充実を図る。 ・各学年の実態に応じた「学習カード」を作成し、活用を図る。 ・冬の運動を実施する。	B
指標 ・学校生活アンケートにおける「運動やスポーツをすることは好き」と肯定的に回答する児童の割合を８８％以上にする。【令和７年度：８６．４％】	
取組内容④【基本的な方向５　健やかな体の育成】 ・栄養だよりを活用し、食の大切さと規則正しい生活習慣について定期的に指導をする。 ・全教職員で食物アレルギーに対する理解を深め、アレルギー児童の共通理解を図り、食の安全に努める。 ・給食週間を利用し、自分の食生活について振り返る場をつくる。	B
指標 ・全学年で栄養指導を年１回以上実施する。 ・学校生活アンケートで「朝ご飯を毎日食べている」に対して、最も肯定的な「はい」と回答する児童の割合を７５％以上にする。【令和７年度：７８．０％】	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【取組の進捗状況の結果と分析】

① 計画的にモジュール学習を進めることができている。朝学習では、漢字や計算などの学習を継続し、基礎学力の定着を図っている。また、高学年では、教科別指導を取り入れ、児童の学習意欲の向上を図るとともに、指導する教科を限定することで教材研究の時間を確保し、授業力の向上につなげている。

② 朝学習の「ＤＲＥＡＭタイム」を計画的に実施し、歌やチャンツなどを取り入れ、楽しみながら英語に触れる機会を確保している。また、各学年で C-NET と協力して授業づくりに取り組み、正しい発音やゲームなどの楽しい活動を通して、児童の英語への興味・関心を高め、学力の向上を図っている。

③ ７月に実施した学校生活アンケートにおける「運動やスポーツをすることは好き」と肯定的に回答する児童の割合は、88.3%で目標を達成している。体育では、ゲームのルールを工夫したり、学習カードを活用したりすることで、児童が運動の楽しさや達成感を味わい、意欲的に取り組めるようになってきた。

④ ７月に実施した学校生活アンケートにおける「朝ご飯を毎日食べている」に対して、最も肯定的な「はい」と回答する児童の割合は、81.6%で目標を達成している。栄養指導や給食週間を通して、自分の食生活を振り返る機会を設けてきた。また、アレルギー研修やシミュレーション研修を実施し、児童に関する情報共有を図っている。

次年度（今後）への改善点

① 今後も計画通り実施していく。

② 今後も計画通り実施していく。

③ 学習カードを活用できていない学年もあるため、今後は、冬の運動でも活用し、児童が自分の成長を実感できるようにするとともに、休み時間にも進んで運動場で体を動かせるような工夫をしていく。

④ 体調不良を訴える児童の中には、朝食を食べていない児童もいる。今後も、朝食の大切さを伝えるとともに、朝食を食べていない児童への個別の指導を進めていく。

（様式２）

大阪市立平野南小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準　A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 ・　小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を４５％以上にする。 【令和７年度：６年６７．７％、５年５７．８％、４年３８．１％、３年５５．７％　毎年５％増なら中期目標６０％に到達。】 ・　時間外勤務時間について、年 720 時間を超える教員をゼロにする。 【令和７年度：１人】 ・　小学校学力経年調査における「読書は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、５７．４％以上にする。 【令和７年度：５４．８％　毎年２．６％増なら中期目標６５％に到達。】	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向６　教育ＤＸの推進】 ・「こころの天気」の入力やデジタルドリル「navima」などを活用する。	B
指標 ・学校生活アンケートの「ICT を使った勉強はすきですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を８０％以上にする。【令和７年度：８９．０％】	
取組内容②【基本的な方向７　人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・行事の精選や、会議の効率化を図る。 ・時間外勤務時間を減らしていこうとする意識をもつようにする。	B
指標 ・会議の円滑な進行のために、年度当初に会議の持ち方等を示し、全職員の共通理解を図る。 ・週１回「ゆとりの日」を設定する。	
取組内容③【基本的な方向８　生涯学習の支援】 ・図書の時間に読書を楽しむことができるようにする。 ・「絵本広場」を開催する。 ・平野区の取り組みの「ひらちゃん読書ノート」を活用し、読書に対する意欲を高める。	B
指標 ・学校生活アンケートで「本を読むことは楽しい」と肯定的に回答する児童の割合を７０％以上にする。【令和７年度：６８．６％】	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【取組の進捗状況の結果と分析】

① ７月に実施した学校生活アンケートにおける「ICT を使った勉強はすきですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は、85.4%で目標を達成している。朝学習の時間にデジタルドリル「navima」や「コグトレ」を活用したり、学習時間に「スカイメニュー」や「Canva」を使い学習のまとめや自分の考えを発表させたりしてきた結果が表れている。

② SKIP の「会議室」機能を使って、情報の共有を行ったり、会議前に資料をデータと紙の両方の媒体で配布し目を通しておきやすいようにしたりするなどの工夫を行い、会議の効率化を図ってきた。会議自体の時間は短くなってきてはいるが、時間外勤務時間は減っていない。【８月時点の教職員の平均時間外勤務時間は２３時間１２分（昨年度８月は２１時間３２分)】

③ ７月に実施した学校生活アンケートにおける「本を読むことは楽しい」に対して、肯定的に回答する児童の割合は、77.8%で目標を達成している。毎週金曜日の読書タイムの設定や、図書委員会や今年度より始めた図書館ボランティアによる休み時間の図書館開放などの取り組みを進めてきたことにより、児童が図書に親しむ時間の確保に努めてきた結果が表れている。また、読書の苦手な児童のために図書の時間に学校司書による読み聞かせをしたり、担任と一緒に絵本を読んだりするなどの取り組みも進めてきた。

次年度（今後）への改善点

① 継続して ICT を取り入れた教育実践に取り組む。

② 継続して、週１回「ゆとりの日」を設定し、時間外勤務時間を減らしていこうとする意識をもてるようにしていく。また、行事の精選を行い、業務を減らす工夫をしていく。

③ 「ひらちゃん読書ノート」を活用し、読書に対する意識を高める取り組みを進めてきているが、なくしてしまったりして活用できていない児童もいる。「絵本広場」は１１月に開催する予定である。普段図書室にない絵本を区の図書館よりお借りして開催するので、この取り組みをもってより読書に関心を持てるようにしていきたい。